

平成26年度

# 基金決算のお知らせ

去る9月16日、当基金の第74回代議員会が開催され、平成26年度の決算が可決・承認されました。

## 年金資産(固定資産)は308億2,410万円に

### 年金経理

年金・一時金の支払いや、その財源となる資産の積立状況を見る会計です。

### 1年間の収支状況 (損益計算書・経常収支)

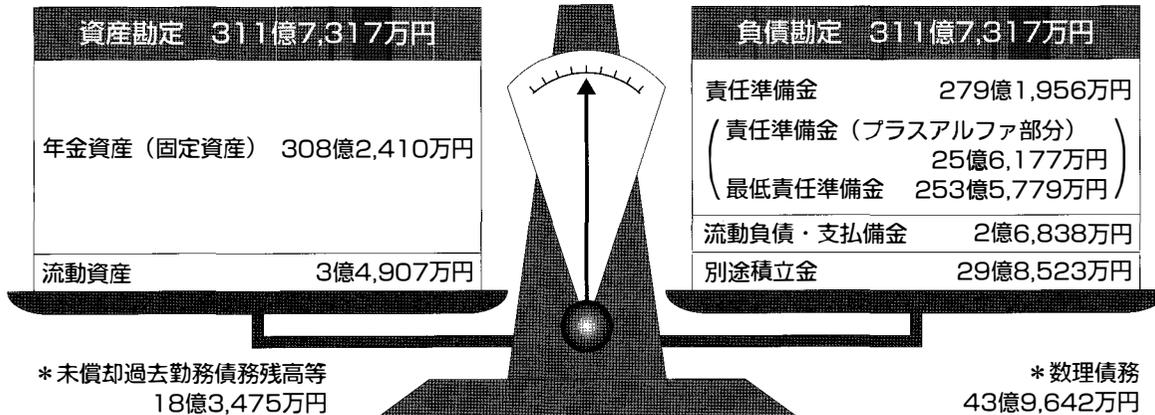
基金の主な収入源である掛金、主な支出である年金・一時金の支払い、年金資産の運用損益などの1年間の収支を明らかにしています。

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)



年度末時点における年金資産と、年金給付債務を比較し、基金財政が健全かチェックします。平成26年度は、堅調な運用結果であり、運用収益も約29億円以上となりました。ただ、今年度限りの措置である最低責任準備金の計算方法の変更により、同準備金が増となり結果的に約1億3,700万円の当年度不足金が生じましたが、前年度から保有の別途積立金(約31億2,200万円)との調整により、約29億8,523万円を剰余金(別途積立金)として処理しました。

(平成27年3月31日現在)

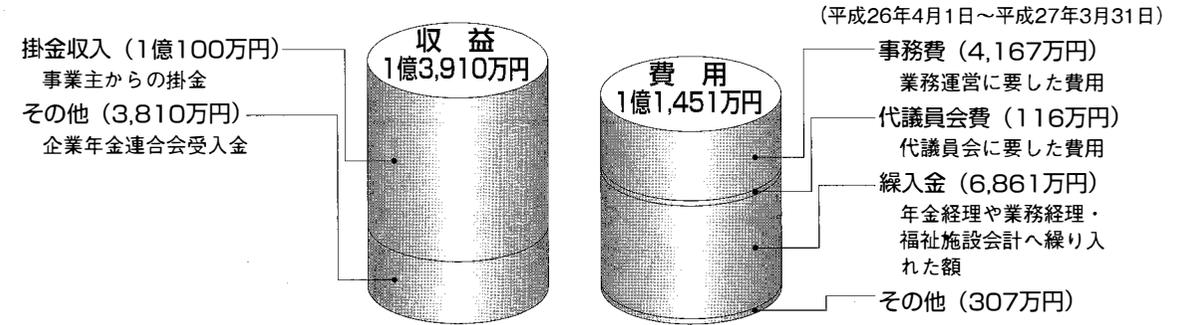


### 掛金は事業主が多く負担しています

基金の掛金は、国の老齢厚生年金を代行している部分については加入員と事業主が折半で負担していますが、上乘せ給付部分については全額事業主が負担しています。

### 業務経理・業務会計

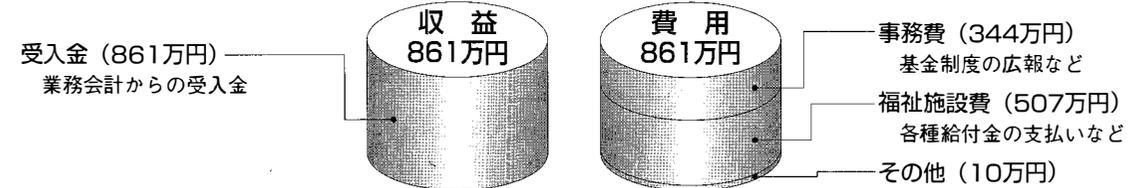
基金の業務運営に必要な経費を処理します。



### 業務経理・福祉施設会計

慶弔金の給付や基金広報など、福祉施設事業に関する経費を処理します。

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)



## 平成26年度 年金経理の財政検証結果

基金では毎年度の決算時に、年金資産の積立水準が一定レベルに達しているかどうか、「継続基準」と「非継続基準」という2つの基準によって検証しています。

年金資産の積立水準が基準値を下回った場合は、掛金を引き上げるなどして積立計画を見直します。

### 継続基準による財政検証

将来の給付への備えとして、現時点で保有すべき資産(責任準備金)が積み立てられているかを検証します。

検証の結果、純資産額が責任準備金を上回り、順調に資産が積み立てられていることが確認できました。

純資産額	1.10	(基準値)
責任準備金		(1.0以上)

### 非継続基準による財政検証

現時点で基金が解散すると仮定して、加入員、受給者への給付を行うために必要な資産が積み立てられているかを検証します。

検証の結果、基準値をクリアしており、加入員、受給者等への給付を行うための資産を保有していることが確認できました。

純資産額	1.04	(基準値)
最低積立基準額		(0.96以上)
純資産額	1.21	(基準値)
最低責任準備金		(1.1以上)